

全国学力・学習状況調査

嘉麻市立嘉穂中学校 対象学年:3年生

1. 調査目的等

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2. 学校ごとの指標

- 全国学力学習状況調査国語AB、数学ABの4区分とも全国平均正答率をこえる。

3. 指標にむけての取組

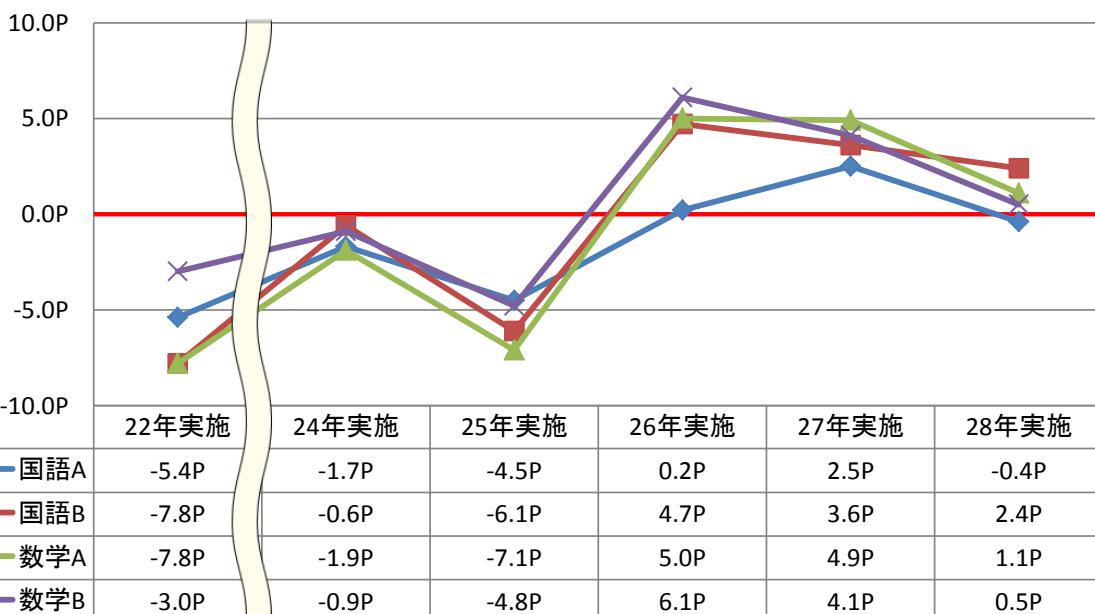
- (1) 言語活動を充実させる授業を行う〈校内研究の日常化〉
 - 一人一回の授業研究の実施
- (2) 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る活動の実施
 - 学力調査の分析結果を基にした苦手分野の繰り返し学習の取組
 - 授業と連動した家庭学習の実施・点検・評価の徹底(自学の充実)
 - 授業アンケート(生徒による授業評価)の実施と結果を受けた教師の授業改善策の生徒への提示

4. 調査結果

本年度の結果 (平均正答率に対して)

| 教科名 | 国語A | 国語B | 数学A | 数学B |
|-----------|------|------|------|------|
| 本校(A) | 75.2 | 68.9 | 63.3 | 44.6 |
| 嘉麻市(B) | 69.8 | 58.8 | 51.7 | 35.0 |
| (A) - (B) | 5.4 | 10.1 | 11.6 | 9.6 |
| 福岡県(C) | 74.8 | 65.8 | 60.3 | 42.4 |
| (A) - (C) | 0.4 | 3.1 | 3.0 | 2.2 |
| 全国(D) | 75.6 | 66.5 | 62.2 | 44.1 |
| (A) - (D) | -0.4 | 2.4 | 1.1 | 0.5 |

全国平均との差異



5. 各学校における分析

- ・年度によって成績にばらつきがあるのは、学年の雰囲気によるものである。つまり、落ち着いて学習する環境が整えられたかどうかだと考える。
- ・全国平均をこえるようになったのは、先生方の学力向上への意識が高まってきたからであると考える。
- ・小学校でついた実力を維持できるかが大きなポイントである。

6. 各学校における今後の取組

- (1)生徒が問ややる気をもつよう、導入に工夫のある授業を行う<校内研究の日常化>
 - ・一人一回の授業研究(3回は指導主事を招いての研究協議会)の実施
 - (2)基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る活動の実施
 - ・学力調査の分析結果を基にした苦手分野の繰り返し学習の取組
 - ・授業と連動した家庭学習の実施・点検・評価の徹底(自学の充実)
 - ・授業アンケート(生徒による授業評価)の実施と結果を受けた教師の授業改善策の生徒への提示
 - ・評価活動を充実させる
- 以上の取組を確実に行う。

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◆ 嘉麻市学力向上推進プランに基づく学力向上検証改善委員会を開催し、有機的に機能させる。そのために、以下の事項について支援する。
 - ・課題把握、学力向上策、評価改善の妥当性についての研修を実施する。
 - ・校内学力向上推進委員会への指導助言を行う。
 - ・取組状況の確認及び適時性のある指導を継続する。
- ◆ 嘉麻市学力向上推進プランに設定した「書く活動」を核とした授業づくりを推進する。そのために、以下の事項について支援する。
 - ・校内研修における授業参観指導を実施する。
 - ・学力向上推進員による講師及び若年層の教員を対象とした授業改善指導を継続的に実施する。
 - ・中学校教科教育研究会を年間4回開催し、授業公開及び授業改善に関する協議を行う。
- ◆ 嘉麻市学力向上プランに設定した「学力補充」を推進する。そのために、以下の事項について支援する。
 - ・学習サポートを配置した「嘉麻市土曜未来塾」を年間40日程度開塾することで、基礎基本の定着の強化と家庭学習の習慣化を図る。
 - ・長期休業中及び放課後等における補充学習、個に応じた学習を支援する。